

前回（第9回）会議の議論・意見を踏まえた対応

（1）進路状況調査について

〔意見〕

学習等支援事業を利用した子どもたちの進路状況調査について、継続実施できると良い。また、学校を中退したり、就職先が未決定となってしまう子どもへの対応を引き続き考えていく必要がある。

◆進路状況調査

令和4年度調査結果

対象者：学習等支援事業に参加した子ども31名を調査

⇒進路状況判明者：14名 他調査中：17名

判明者の状況

【高等学校卒業（中退者を含む）】判明者6名の結果

（1）就労継続中	4名
（2）大学等在学中	2名

【中学校卒業（中退者を含む）】判明者8名（※）の結果

※（高等学校4年生：1名、3年生：4名、2年生：1名、1年生：1名、中退：1名）

（1）就職決定	2名（3年生：2名）
（2）進学決定	1名（3年生：1名）
（3）進級予定	3名（3年生：1名、2年生1名、 1年生：1名）
（4）就職活動中	1名（4年生：1名）
（5）高校に進学するも中退しアルバイト	1名（中退：1名）

分析

調査判明した生徒のうち高校中退した1名については、前回会議で報告した1名と同じ者である。1名のその後の状況としては、不定期にステップに顔を出すことがあり、無就労の状態からアルバイトを開始している。

対応

定期的に現状を把握し、いつでも相談に乗れる体制を築いていく。

(2) 学習等支援事業を利用する外国にルーツを持つ子どもたちの現状及び対応状況について

〔意見〕

外国にルーツを持つ子どもたちのうち、学校に在籍していない子どもの割合はどれぐらいか。また、学校に繋がっていない子どもたちはどうなっているのか。

◆公立学校に在籍していない子どもについて

小学校入学前及び中学校入学前に進学意向調査が行われる。(下表参照)

住民基本台帳からデータを抽出し、次年度に小学1年生または中学1年生になる子どもがいる家庭に対して、意向調査を実施している。

◎令和4年度進級児童の状況

単位(人)

	調査対象 児童数	公立学校への 進学者	外国人学校へ の進学者	不明者
小学生	460	456	4	0
中学生	546	545	1	0
合計	1,006	1,001	5	0

◆外国にルーツを持つ子どものうち、学校に在籍していない子どもの割合

⇒ 学校に在籍していない子どもが何人いるのかは把握が困難。戸籍担当に聞き取りをしたところ、転入時に通学先を聞いており、その感触としてはどこの学校にも属さない児童生徒はいないとみられるとのこと。また教育委員会に聞き取りをしたところ、在学中に公立学校から外国人学校へ転学する生徒はほとんどいないとのこと。

◆日本語指導教室を利用する子どもの人数について

◎令和4年度の利用実績

単位(人)

	外国籍生徒の人数	日本語教室を利用した 外国籍生徒の人数
小学生	250	111
中学生	121	56
合計	371	167

外国籍の子どものうち日本語教室を利用する生徒の割合は、小学生で約44%、中学生で約46%となっている。50%には満たないが約半数の生徒が利用している。

分析

外国籍の子どものうち、学校に在籍していない子どもは進学意向調査のデータや戸籍担当、教育委員会の感触を見る限り、0人に近いのではないと思われる。

《 参 考 》

◆学習等支援事業における外国にルーツを持つ児童生徒の状況について

- ・令和4年度に登録した外国にルーツを持つ児童生徒は11人（全体の24％）

※外国にルーツはあるが日本国籍の生徒を含む

（内訳）高校生2人　中学生6人　小学生3人

- ・上記11人のうち日常のコミュニケーション等に日本語の課題のある生徒は0人。
勉強において日本語理解の課題がある生徒は3人。

分 析

小中学校の全生徒数に対する外国籍児童生徒の割合が7.8％であることを考えると、ステップを利用する外国籍児童生徒の割合24％は約3倍にもなり、受け入れも高いことが分かる。つまり、外国籍児童生徒の支援の一つとして、ステップが機能していると考えられる。

(3) こども食堂の成果について

【意見】

こども食堂の成果も分かるように、客観的に図る方法を検討してほしい。こども食堂を学習等支援事業と併設して実施する部分に焦点を当てて評価してもよいのではないか。

◆食事支援に関するアンケートの実施（平成29年～令和3年）

ステップ・ジュニアを利用する児童および保護者に対してアンケート調査を実施した。

【児童向けアンケート】

Q「ステップ・ジュニア」にあって良かったと思う内容は何か。

A

	アンケート回答児童数	送迎	昼食	おやつ	学習	工作	調理講座	その他の講座	図書館の本
令和3年	14人	3人	5人	3人	4人	8人	5人	5人	2人
令和2年	11人	4人	4人	6人	6人	6人	2人	2人	3人
令和元年	9人	6人	4人	6人	3人	4人	2人	2人	3人
平成30年	6人	2人	4人	5人	4人	4人	3人	3人	2人
平成29年	7人	4人	4人	4人	1人	5人	2人	2人	3人

【保護者向けアンケート】

Q 地域に、無料または安価で子どもに食事の提供を行う「子ども食堂」があったら、お子様を参加させたいと思いますか。

A

	アンケート回答保護者	参加させたい	参加させたくない	分からない
令和3年	25人	17人	0人	7人
令和2年	23人	18人	0人	2人
令和元年	22人	16人	1人	4人
平成30年	29人	14人	2人	10人
平成29年	30人	20人	0人	8人

Q 子ども食堂に「参加させたい」を選んだ理由は何ですか。

A

	アンケート回答保護者	家でしっかり食事がとれないから	子どもと一緒に食べる人がほしいから	たまには食事を作るのを休みたいから
令和3年	25人	2人	7人	3人
令和2年	23人	2人	5人	4人
令和元年	22人	1人	5人	5人
平成30年	29人	0人	3人	3人
平成29年	30人	2人	9人	3人

分析

児童については、平成29年から30年にかけては約60%がステップ・ジュニアと食事支援が一体となっていて良かった思っていた。しかし、その後の令和元年から3年にかけては良かったと思う数値が減少している。

保護者については、平成30年を除いて、常に65%以上が「子ども食堂」があれば参加させたいと思っている。またその理由としては「子どもと一緒に食べる人がほしいから」が最も多く、子どもの孤食を防ぐために子ども食堂が期待されている。